



野田小だより

学校教育目標

活力にあふれた学校

●がんばる子

●やさしい子

●学びつづける子



凡事徹底

平成29年7月3日

校長 小林 達哉

空梅雨が心配されていましたが、先週から雨が降り始め、校庭の木々や野菜たちも生き生きしてきました。校舎内を見ると、子どもたちも同様に、新学年が始まって3か月が経ち、生き生き、のびのびと生活しています。

さて、先週の学校評議員連絡会、学校関係者評価委員会で、子どもたちの授業の様子を見ていただきました。そのあとの懇談会で、「低学年から高学年まで、先生の話をよく聞いて、落ち着いてしっかり集中して授業を受けていますね。」というお褒めの言葉をたくさんいただき、大変うれしく思いました。学校は、勉強するところですので、集中して話を聞くことは、当たり前のことなのですが、実はそれがなかなか大変なのです。

本校の学校経営方針の重点の三つ目に「凡事徹底」をあげています。これは、前述の人の話をきちんと聞く、さらに自分の身の回りを整理整頓する、ごみが落ちていたら拾う、時間を守る、約束を守る、明日の授業の用意は前日のうちに自分でそろえる、靴や上履きを脱いだらきちんとそろえて置く、進んであいさつや返事をする、毎日ハンカチとちり紙を持ってくる、などの普段の「何気ない当たり前のことを当たり前のようによくやる」ことを言います。

しかし、これが大変難しいのです。私も職員室で書類に目を通したり、人と話をしていると、その間に出勤した職員にあいさつを返すのを忘れてしまうことがあります。

私は、毎朝、校門のところに立ち、子どもたちを迎えています。私が右から来る子たちの方を向いてあいさつをしていると、左から来た子が、私の背中に向かって「おはようございます。」と大きな声であいさつをしてくれます。廊下を歩いている時も、後ろからよくあいさつをされます。この子たちは、あいさつの上級者と言えるでしょう。きっと、大きくなっても人と上手にコミュニケーションをとり、主体的に生きていくことができるのではないかと思います。

「何気ない当たり前のことを当たり前のようによくやる」時に、特別な力も才能も必要ありません。なぜならそれ自体は、誰でもできる簡単なことだからです。その後結果が出るか出ないかは、その当たり前のことを徹底してできるかできないかの差なのではないでしょうか。平凡なことを徹底してやると、その中から非凡が生まれ、いつかは人を感動させることができるのではないのでしょうか。

子どもたちにだけ「凡事徹底」を言うのではなく、私たち教職員も「凡事徹底」を肝に銘じて今後も教育活動に専念してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



全校田植え



全校児童集会



学校保健委員会